

水土里レポート

投稿月日	令和6年6月20日
タイトル	トーマスの線路を歩こう（日本で最初の森林鉄道跡を歩く）
水土里レポーター名	十三湖土地改良区 庶務係長 外崎 修一

令和6年6月12日（水）、青森県中泊町立薄市小学校放課後子ども教室18名参加の「トーマスの線路を歩こう」を行いました。

115年前、日本初の森林鉄道「津軽森林鉄道」開通、青森県の津軽半島一帯に線路をもっていた津軽森林鉄道は、トーマスのモデルとなった機関車が走っていました。（1967年3月廃線）その線路の一部跡地を歩いてみようという企画です。協力機関は、地元の今泉町内会、青森県、県土連、中泊町、地元企業、当土地改良区が参加し、当日は地元新聞社（東奥日報社）も取材にきていただき、令和6年6月20日（木）付けの新聞にも掲載されたところです。

今回、歩いた線路跡は、農地中間管理機構関連のほ場整備事業（今泉神山地区）を実施中であり、施工後一部線路跡は水田に生まれ変わります。町内会の皆さんから当時の歴史を子どもたちにお話しいただきながら、約800m、30分程度ですが、線路跡をゆっくり歩きました。

当日はとても暑かったのですが、途中「スタンド・バイ・ミー」のテーマをスマホのスピーカーから大音量で流し、皆さんと一緒に聞きながら歩くと、さながら映画の中に入り込んだ感じになり、一つの夏の思い出が終わるかのようでとても感動しました。

その後、集会場へ移動、昔の森林鉄道の写真パネルを展示し、町内会の皆さんからその頃の情景を子どもたちへお話ししていただきました。森林鉄道は木材の輸送だけではなく、雑貨、急病人の搬送にも使われ、人々の生活にも役立っていたそうです。また、森林鉄道が走っていた当時の動画も見てもらいましたが、子どもたちよりも当時を知る町内会の方々の反応が良く印象的でした。

昔は木材を森林鉄道で運搬することで人々の生活に役立っておりましたが、これからはほ場整備された農地として人々の生活に役立っていくと思います。



（令和6年6月20日（木）付け東奥日報より）